

スターチス・シヌアータ県オリジナル品種の クーラー育苗時の温度管理

1. はじめに

これまでに暖地園芸センターでは、県オリジナル品種である「紀州ファインバイオレット」および「紀州ファイングレープ」を育成しました。これらの品種の安定生産のためには、品種特性を明らかにし、適正な栽培管理を実施することが重要です。そこで、収量に大きく影響すると考えられるクーラー育苗時の温度が定植後の切り花本数に及ぼす影響について検討しました。

2. 試験結果

材料には、「紀州ファインバイオレット」および「紀州ファイングレープ」を用いました。組織培養苗をポットへ鉢上げした後、クーラー育苗時の温度管理（昼間/夜間）を①無冷房/15℃、②30℃/15℃、③25℃/15℃（慣行の管理温度）、④25℃/20℃、⑤25℃/無冷房として8月10日から9月10日まで育苗を

行いました。その後、温室に定植して生育を調査しました。

その結果、昼間の温度については、夜温が15℃の場合、両品種とも30℃での切り花本数は25℃とほぼ同等となりましたが、無冷房では25℃よりも2割程度切り花本数は少なくなりました（図1）。一方、夜間の温度については、15℃から20℃、無冷房と気温が高くなるにつれて切り花本数が少なくなる傾向がありました。また、切り花の品質は、両品種とも育苗温度にかかわらずほぼ同等でありました（データ省略）。

3. まとめ

以上のことから、両品種とも、クーラー育苗時の温度が昼間：30℃/夜間：15℃であれば、慣行の管理温度と同等の収量が得られることが明らかになりました。ただし、実際の栽培管理では、クーラー育苗施設内の温度ムラ等を考慮して、安定的に昼間を30℃以下に保つために、クーラーの設定温度を30℃よりも低くすることが望ましいと考えられます。

（園芸部 島 浩二）

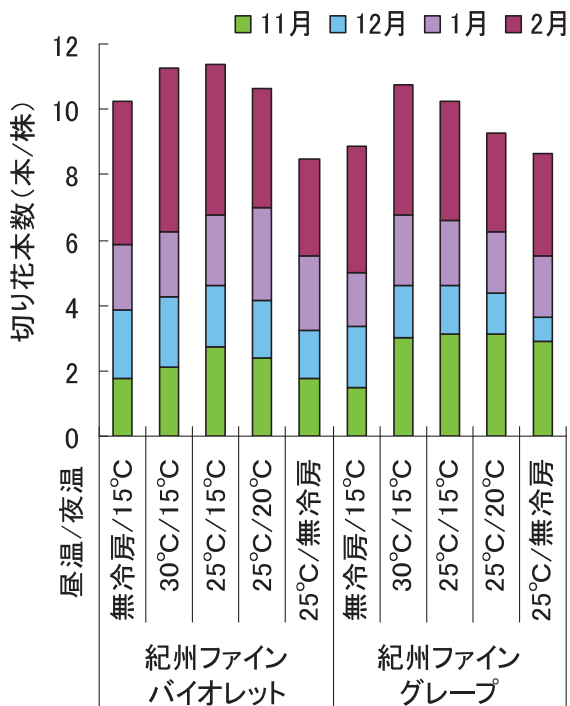


図1 育苗期間中の温度管理がスターチス・シヌアータの切り花本数に及ぼす影響

和歌山県農業試験場

暖地園芸センターニュース No.41

平成24年7月20日発行

編集・発行 和歌山県農業試験場

暖地園芸センター

〒644-0024 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724

TEL 0738-23-4005

FAX 0738-22-6903

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/003/003.htm>

（この印刷物は再生紙を使用しております）